

第8回下関チーム医療 緩和ケア懇話会

日時

平成30年1月26日(金) 19:00~20:30

場所

海峡メッセ 10F 国際会議場

一般演題 (19:00~19:15)

座長

篠原 正博 先生 したのはらクリニック 院長

演題

「緩和ケア病棟における栄養士の役割」

演者

速水 奈穂 先生 下関市立市民病院 栄養管理部

特別講演 (19:15~20:30)

座長

牧野 一郎 先生 下関市立市民病院 緩和ケア内科 部長

演題

「緩和ケアにおけるチーム医療」

演者

恒藤 暁 先生

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 教授

CC:10 チーム医療 (1単位), 21 食欲不振 (0.5単位)

- ※ 参加費無料・事前申込み不要です。
- ※ 駐車場は海峡メッセ内駐車場をご利用下さい。
受付にてサービス券をお渡し致します。

※ 当講演会で取得したご所属・ご氏名は、
弊社による医薬品および医学・薬学に関する情報提供のために利用させていただいております。
また、当該情報は、弊社から共催会社・団体、参加医師および医師会に開示し、
開示先が参加者の確認のために利用することがございます。予めご了承ください。

主催:協和発酵キリン株式会社



京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻
教授 恒藤 暁 先生

職歴

- 1985年 筑波大学 医学専門学群卒業
- 1993年 英国St Christopher's Hospice 研修
- 1995年 淀川キリスト教病院 ホスピス長（部長）
- 2001年 大阪大学大学院 人間科学研究科 臨床死生学 助教授
- 2006年 大阪大学大学院 医学系研究科 緩和医療学寄附講座 教授
- 2014年 京都大学大学院 医学研究科 集学的がん診療学講座 教授
- 2016年 京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻 教授（現在に至る）

患者さんの苦痛へ適切に対応し、 苦悩ある人に寄り添う

疾患に関連する痛み、食欲不振、悪心・嘔吐、呼吸困難、倦怠感、不安、抑うつ、せん妄、不眠などの身体症状・精神症状などの問題を適切に評価・対応することにより、Quality of lifeの改善をめざす取り組みを行っています。

診療体制と治療実績

入院診療

身体症状・精神症状のあるがん患者さんを対象とし、がんサポートチーム（緩和ケアチーム）として対応しています。がんサポートチームは、身体症状担当医師（緩和医療医）、精神症状担当医師（精神科医）、看護師（がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師）、薬剤師（緩和薬物療法認定薬剤師）、医療ソーシャルワーカーなどから構成されています。依頼受け付け後、できるだけ早く診療することに努めています。必要に応じて継続的に診療しています。また、ご家族のサポートや療養場所の支援の依頼も可能な範囲で受け付けるようにしています。また、身体症状のある非がん患者さんにおいては、限定的に診察しています。

2014年度の依頼総数は444人であり、依頼内訳は、①痛み（38%）、②不安・抑うつ（30%）、③せん妄（7%）、④不眠（4%）、⑤倦怠感（2%）、⑥悪心・嘔吐（2%）、⑦腹部膨満感（2%）でありました。

外来診療

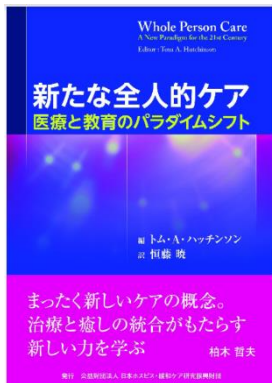
身体症状・精神症状のあるがん患者さんで当院の診療科に通院中の患者さんを対象としています。入院中にごんサポートチームで診療した患者さんにおいて、退院後も必要に応じて継続的に診療します。また、他の医療機関からの依頼は、適宜受け入れる予定です。

地域医療の取り組み

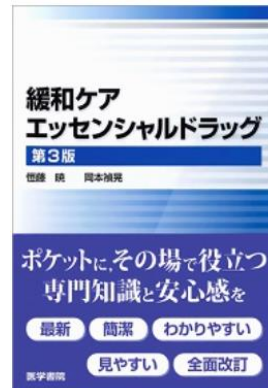
地域の緩和ケアチーム・緩和ケア外来・緩和ケア病棟などとの連携に努めています。今後の取組みとして、①患者さんの身体的苦痛や心理社会的苦痛などのスクリーニング、②緊急緩和ケア病床の確保（緊急入院体制の整備）、③がん患者カウンセリング、④専門相談支援、

⑤地域連携支援、⑥教育・研修、⑦診療情報の集約・分析などがあります。また、京都大学緩和医療研究会を立ち上げています。緩和医療に関する講演会や事例検討などを定期的で開催して、教育・研修・研究の場を提供します。

主な書籍紹介



「新たな全人的ケア：医療と教育のパラダイムシフト」
青海社



「緩和ケアエッセンシャルドラッグ 第3版」
医学書院